

## Exciting108 の進捗状況

### 新中期計画「Exciting108」

当社では、「Exciting Companyの実現と企業価値の拡大」を目標に掲げ、2004年3月期を最終年度とする新中期計画「Exciting108」を2000年4月より展開しております。

この新中期計画「Exciting108」では、数値目標を設定しておりますが、当期の実績は以下のようになっております。

2004年3月期は新中期計画「Exciting108」の最終年度ですが、残念ながらITバブルの崩壊などにより目標達成は厳しいと考えております。しかしながら、今後も収益回復のための構造改革を実行し、また、市場が求める独創的な新製品のタイムリーな提供を図りながら、当社の目標である収益性の拡大ならびに資本の効率化を目指してまいります。

### 収益性/資本効率

当期の収益性は、前期ならびに当期行いました収益構造改革の効果や当期進めてきました事業の「選択と集中」の効果が表れ、下記のように改善しました。

また、資産効率の観点から、棚卸資産や売掛金などの改善に努め、総資産回転率も好転しました。

	2001年3月期 実績	2002年3月期 実績	2003年3月期 実績	2004年3月期 目標
営業利益率	8.3%	-7.7%	3.6%	13.0%
ROE	7.3%	-4.2%	2.1%	12.0%
TVA	-1.4%	-11.8%	-6.0%	3.0%
総資産回転率	0.9回転	0.7回転	0.8回転	1回転以上

注記1. TVAとは、資本コストという株主が期待するリターンをハードルと考え、これに対して投下資本利益率がどうであったかを判断する指標です。また、投下資本利益率の算出は、利払前税後利益をベースに行っております。なお、標記TVAの前提となる資本コストは、今回8%で見えております。

注記2. 営業利益率は、売上高と、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費(2001年3月期における特定の無形固定資産売却を除く)及びリストラクチャリング費用を差し引いて求められる営業利益により算出されます。

注記3. 2003年3月期より、米国発生問題専門委員会基準書01-9「再販を含む販売者による購入者に対する供与に関する会計」を適用しております。これに伴い、2001年3月期と2002年3月期の売上高を2003年3月期の表示に合わせるため組替え、それに基づいて営業利益率を計算しております。

### 重点分野の売上高構成と伸び率

記録分野においては、前期と比較してHDD用ヘッドのマーケットシェアが回復したことなどにより、売上高が大きく増加しました。

一方、通信分野においては、携帯電話向けは若干回復してきたものの、通信インフラ関連の需要がいまだに回復せず売上高が減少しました。

	2001年3月期 実績		2002年3月期 実績		2003年3月期 実績		2004年3月期 目標	
	構成比	前期比伸び率	構成比	前期比伸び率	構成比	前期比伸び率	構成比	年平均伸び率
通信分野	14%	30%	9%	-50%	7%	-14%	20%	25%
記録分野	41%	-7%	43%	-11%	47%	16%	45%	10%

### 設備投資額(全体)

当期も、合理化設備投資を中心とし、全体の設備投資額を抑えました。

	2001年3月期 実績		2002年3月期 実績		2003年3月期 実績		2004年3月期 目標
	当期	累計	当期	累計	当期	累計	累計
設備投資額	99,452	99,452	58,777	158,229	41,451	199,680	350,000